

# オスカー・ワイルドのパラドックス (逆説) について

佐藤 猛 郎

They can do etchings that have the brilliancy of epigrams, pastels that are fascinating as paradoxes. — *The Critic as Artist*  
(彼らは警句のように華麗なエッチング、逆説のように魅惑的なパステル画を作り出す。—芸術家としての批評家)

## (I)

オスカー・ワイルド (1856-1900) の作品を読んで、まず最初に目を奪われるものは、その色彩的な文体の華麗さと、縦横の才気であるが、私にはこの絢爛たる才気のコツは、彼独特のパラドックスにあるように思われる。ワイルドの伝記をひもどけばすぐ気がつくことだが、彼には他人の意表に出ることを好む性質が顕著にみられる。(注1) この生来の性質と、現実をそれとは離れた視点から、しかも常人とは全く異った視点から観察できる知的、文学的才能とが結びついて、パラドックスという表現形式の中に、ワイルドの天才が開花したものであろう。

パラドックス (paradox) とは O. E. D. によれば A statement or proposition which on the face of it seems self-contradictory, absurd, or at variance with common sense, though, on investigation or when explained, it may prove to be well-founded (2.a), つまり「一見矛盾論のようであるが、内容的には真理を含んでいる表現形式」と、Often applied to a proposition or statement that is actually self-contradictory, or contradictory to reason or ascertained truth, and so, essentially absurd and false (2.b). 「真理を本質的に含まぬ矛盾論、詭弁」などがその主要語義として挙げられているが、これを仮にA型、B型とし、ワイルドの作品に於けるあらわれ方に照合して、

「A型」……真理を含んだ一見矛盾論

「B型」……一見論理的に見える矛盾論、詭弁、という工合に便宜的に分類して見たい。「A型」というのは、「偉大な建設者は偉大な破壊者である」の類で、一見矛盾論にみえるが、明治維新の例をひくまでもなく、破壊なしに建設はあ

り得ないのが現実である故に、真実を含んでいると見做されるものを指し、「B型」は、「A は B を好む。B は C を好む。故に A は C を好む」の類で、詭弁の範疇に入れることができよう。共に国文法における所謂「逆説」とは全く異質のものである。

古来人口に膾炙している格言、諺、警句の類の中には“Two is company; three is none.” や我が国における「急がばまわれ」式の A 型の paradox が数多く使われているが、一般の文学作品に表われたものとしては、ワイルドの作品程その量、質ともに豊かな例は他にないように思われる。paradox はギリシャ語にその起源を持ち、*παρά* (=beyond; against) + *δόξα* (=opinion) つまり「通説」に対する「逆説」を意味し、ギリシャ、ローマの多くの哲人、文人に愛された表現形式であるので、ヘレニズム文化、ギリシャ文学に憧れていたワイルドがこの形式を通じて自己の文学と築いたのも、恐らく自然の成り行きだったかもしれない。(注2)

ワイルド以外で paradox が用いられた文学作品の例として、Shakespeare (1564-1616) の King Lear (1, i, 250) における Fairest Cordelia, that art most rich, being poor; Most choice, forsaken; and most lov'd, despis'd! (A型)

(美わしきコーデリアよ。あなたは貧しいが最も富んでいるのです。見捨てられてはいるが最も選ばれたお方、そして蔑ずまれてはいるが最も愛されてはいるお方なのです)

W. S. Gilbert (1836-1911) The Pirates of Penzance の一節

How quaint the ways of Paradox!  
At common sense she gaily mocks!  
Though counting in the usual way,  
Years twenty-one I've been alive,  
Yet, reckoning by my natal day,  
I am a little boy of five! (B型)

(パラドックスとは何と奇妙なものだろう。常識を陽気に笑いとばしてしまうのだ。普通の計算では、私は21才なのに、誕生日で数えると、私は5才の少年だ)

とか、現代作家では Maugham (1874-1965) の Constant Wife の中にみる、Frankness of course is the pose of the moment. It is often a very effective screen for one's thoughts. (A型)

(率直さも勿論その時々演技なのです。それは自分の考えを隠すのにとて

も効果的なのですよ)

Graham Greene (1904-) の *Ministry of Fear* の一節

It wasn't only evil men who did these things. Courage smashes a cathedral, endurance lets a city starve, pity kills ... we are trapped and betrayed by our virtues. (A型) (このような非道をやったのは、悪人ばかりではなかった。勇氣は大寺院を崩壊させ、忍耐は都市を餓死に追いやり、同情心は人を殺すのだ……我々は我々の美德の陥穽におち、欺かれるのだ)

などが目につく程度だが、モームの paradox が全くワイルド風なものも興味深い。モームは *The Summing Up* (1938) の中で、若い頃一時はワイルドに傾倒してその抜き書きのノートを作ったが、結局それは使わず仕舞いにして、nonsense を書こうとするもののために放置してあるなどと云っているのだが、ワイルド研究の結果がこのような形で表われて来たのだろうか。

## (II)

さて、ワイルドのパラドックスに関してであるが、ワイルドの場合はその対象が人間生活の全般にわたっているので、それぞれの分野での彼の視方を挙げてみよう。

1. 「政治」 I adore political parties. They are the only place left to us where people don't talk politics. — *An Ideal Husband* (私は政党が大好きだ。我々に残された政治の話をしていない唯一の場所なんだから)

Only people who look dull ever get into the House of Commons, and only people who are dull ever succeed there.—*ibid.* (鈍愚のように見える連中だけが、国会議員になり、本当に愚鈍な者だけがそこで成功する)

文学者の常として、彼も政治家には余り好意を持っていなかったように思われる。しかし次の例では政治の一面を見事に捕えている。

Good kings are the only dangerous enemies that modern democracy has.—*Vera* (善良な王というものは現代の民主主義の唯一の敵である) The worst slave-owners were those who were kind to their slaves and so prevented the horror of the system being realized by those who suffered from it. — *The Soul of Man under Socialism* (最も悪質な奴隷所有者とは、奴隷共に親切であり、そうすることによってその犠牲者たちに、この制度の恐ろしさを悟らせないような人々であった)

これらはいずれもA型のパラドックスである。

2. 「道徳」 Charity creates a multitude of sins. — *The Soul of Man under Socialism* (慈善は歴大な罪惡を生みだすものだ)

And self-sacrifice is a thing that should be put down by law. It is so demoralizing to the people for whom one sacrifices oneself. They always go to the bad. — *An Ideal Husband* (自己犠牲などというものは法律で禁止すべきです。我々が自己を捨てて尽してやる相手をひどく墮落させるんですからね。彼等は悪くなる一方なんだから)

That the desire to do good to others produced a plentiful crop of prigs is the least of the evils of which it is the cause. — *The Critic as Artist*

(他人に善をほどこそうと思ったことが、泥棒共を数多く作り出したなどということは、それが原因で生じて来るもろもろの害惡の中ではもの数ではないのだ)

余りにも安易な同情や慈善が決して罪びとを救済する事にはならず、むしろ罪惡を助長することになっているような事例も我々の身の回りにはかなりある。

Whenever a man does a thoroughly stupid thing, it is always from the noblest motives. — *The Picture of Dorian Gray* (人が全く愚かなことをしでかすときは、それは常に最も立派な動機からである)

この思想は前掲のグレーム・グリーンの一節にもその類型を見ることができ、現実においても、ワイルドの言葉通り、余りにも多くの愚行が善意の名において横行しているように思われる。ここから、

Lord Illingworth says that all influence is bad, but that a good influence is the worst in the world. — *A Woman of No Importance*

(イリングワース卿はすべての影響力は好ましくないのだが、良い影響力などというものはこの世の中で一番悪いものだと言っています)

It is always a silly thing to give advice, but to give good advice is absolutely fatal.—*The Portrait of Mr. W. H.* (忠告を与えるということは常に愚かなことだが、良い忠告をすることは全く救い難い愚行である) といったワイルド独特のパラドックスの世界が開けて行くのである。これら一連のA型に対して、B型のものもある。

I like no law,

Were there no law, there'd be no law-breakers,

So all men would be virtuous.— *The Duchess of Padua* (私は法を好

まぬ。法がなければそれを破るものもなくなり、すべての人は徳の高い人となるだろうから)

がそれであるが、初期の作品のため、B型特有の軽さがない。

3. 「宗教」 Scepticism is the beginning of Faith. — *The Picture of Dorian Gray* (懷疑は信仰の始めである)

But in the English Church a man succeeds, not through his capacity for belief, but through his capacity for disbelief. — *The Decay of Lying* (英国の教会では信仰の力ではなく、不信の力で人は成功している)  
疑いと迷いの後に悟りを得た Newman などの大宗教家を念頭において書かれた一節であろうが、自らの罪を懺悔して、宗教界、思想界の雄となった例としては、フランスのジャン・ジャック・ルソー、我が国の親鸞上人などもあげることができよう。上記の例はいずれもA型である。

4. 「歴史」 It is very much more difficult to talk about a thing than to do it. In the sphere of actual life that is of course obvious. Anybody can make history. Only a great man can write it. — *The Critic as Artist* (あることを実際に行うよりも、それについて話をするほうがはるかに難しい。実際の生活においてそのことは勿論明白である。誰でも歴史を作ることはできる。しかし偉大な人物のみがそれを書くことができるのである)

The ages live in history through historians' anachronisms.—*Phrases and Philosophies for the Use of the Young* (各時代は歴史家の時代錯誤によって歴史上に生きているのである)

次は芸術と関連してであるが

The ancient historians gave us delightful fiction in the form of fact; the modern novelists presents us with dull facts under the guise of fiction. — *The Decay of Lying*

(古代の歴史家は事実を物語る形式で楽しいフィクションを与えてくれた。所が現代の小説家はフィクションの仮面のもとに無味乾燥な事実を我々に与えているのだ)

第二の例などは、正確を期する余り、読むに堪えない歴史書を書く人々への警告であろうか。三つともA型と見ることができる。

5. 「芸術」 Beauty is the wonder of wonders. It is only shallow people who do not judge by appearances. The true mystery of the world is the visible, not the invisible. — *The Picture of*

*Dorian Gray* (美は最も素晴らしいものだ。外面で判断しないのは浅薄な人々だけなのだ。この世の本当の神秘は限に見えるものなのであって、見えないものではない)

「美の使徒」を任ずるワイルドの面目躍如たるものがある。

In art, good intentions are not of the smallest value. All bad art is the result of good intentions — *De Profundis* (芸術において良い意図などというものは全然価値がない。すべての悪い芸術は良い意図の結果なのだから)

に次いで

The bad Popes loved Beauty, almost as passionately, nay, with as much passion as the good Popes hated Thought. To the wickedness of the Papacy humanity owes much. The goodness of the Papacy owes a terrible debt to humanity.

—*The Soul of Man under Socialism* (悪い法王たちは良い法王たちが「思想」を憎んだのと殆ど同じ位、いや全く同じ位熱意をこめて「美」を愛していた。邪悪な法王に人類は大いにお蔭を蒙っているわけである。善良な法王に対して、人類は莫大な貸しがあるのだ)

これも興味深い一節である。

There are two ways of disliking art. One is to dislike it. The other, to like it rationally. — *The Critic as Artist* (芸術を嫌う方法には二通りある。一つはそれを嫌うことであり、もう一つはそれを理性的に好むことである)

The condition of perfection is idleness the aim of perfection is youth. — *Phrases and Philosophies for the Use of the Young* (人格完成の条件は懶惰であり、その目標は若さである)

非常に爽快な、耽美派のワイルドらしい芸術観であるが、この辺に不幸に終わった彼の人生遍歴への発端を見ることができるようと思われる。(注3)

It is absurd to have a hard and fast rule about what one should read and what one shouldn't. More than half of modern culture depends on what one shouldn't read. — *The Importance of Being Earnest* (どの本を読むべきだとか、どの本を読むべきでないなどと厳格な規則をつくるのは馬鹿げているよ。現代の文化遺産の半ば以上は読んでほしくない本のおかげなんだから)

欧米ではフロベール、D. H. ローレンス、ジョイス等、我が国では森外、

永井荷風、谷崎潤一郎など著書が発禁になった作家の名を挙げてみると成程とうなづかされる。

It is only the modern that ever becomes old fashioned. — *The Decay of Lying* (目新しいものだけが古臭くなってしまふのだ)

It is sometimes said that the tragedy of an artist's life is that he cannot realise his ideal. But the true tragedy that dogs the steps of most artists is that they realise their ideal too absolutely. For when the ideal is realised, it is robbed of its wonder and its mystery, and becomes simply a new starting-point for an ideal that is other than itself. — *The Critic as Artist* (芸術家の生活の悲劇は彼の理想を実現できないことであるとしばしば言われる。しかし大部分の芸術家につきまとう本当の悲劇は、彼等が余りにも完全に理想を実現してしまうことなのである。というも理想は達成されてしまえば、その驚異も神秘性も失われてしまい、それとは別の理想への新しい出発点に過ぎなくなってしまうからである)

共に芸術家の警戒しなければならぬことである。ことに後者の一節などは志賀直哉氏の場合に当てはまるようにも思えるがどうであらうか。

Paradox though it may seem—and paradoxes are always dangerous things — it is none the less true that Life imitates art far more than Art imitates life. — *The Decay of Lying*

(逆説のように思われるかもしれないが——そして逆説は常に危険なものだが——芸術が実生活を模倣するよりも、実生活の方がはるかに芸術を模倣しているということはやはり真実なのである)

これはワイルドの芸術観を代表する有名な一節で、芸術は自然主義作家のように無味乾燥な現実を模倣すべきものではなく、逆に現実をリードする役割を果すべきものと述べている。そういえば、ワイルドの予言通り、「芸術」？の模倣にうきみをやつしている若者が、現代の日本にも数多く見うけられるようである。

Every portrait that is painted with feeling is a portrait of the artist, not of the sitter. The sitter is merely the accident, the occasion. It is not he who is revealed by the painter; it is rather the painter who, on the coloured canvas, reveals himself. — *The Picture of Dorian Gray*

(感情をこめて描かれた肖像画は、どれも、作者自身の肖像であって、モ

デルの肖像ではない。モデルは単なる偶然であって、機会にすぎない。画家によって描かれるのは彼ではない。色を塗られたキャンバスに姿を現わすのはむしろその画家なのである)

Yes, the objective form is the most subjective in matter. Man is least himself when he talks in his own person. Give him a mask, and he will tell you the truth. — *The Critic as Artist*

(客観的な形式が実際は最も主観的なのだ。人は自分の口で話すときには、自分自身を示すことが一番少ない。彼に仮面を与えてみると今度は彼は真実を話すようになるものだ)

これは現在では或程度常識となつている芸術観であるが、当時としては非常に斬新なものだったのであろう。芸術というものの本質を、芸術家の立場から述べたもので、「ボパリー夫人は私だ」と言ったフロベールの言葉なども思い起される。又特に後の例は、ワイルド文学に傾倒した時期のあつた三島由紀夫氏が、自伝的長篇に「仮面の告白」という題名をつける根拠となつたのではなからうか。

又ワイルドは無知な大衆が芸術を破壊するのであると、口癖のように言っているが、その例として次のようなものがある。

In England, the arts that have escaped best are the arts in which the public take no interest. Poetry is an instance of what I mean. We have been able to have fine poetry in England because the public do not read it, and consequently do not influence it. — *The Soul of Man under Socialism*

(英国において、最も被害を免かれている芸術は、大衆が全然興味を持たない芸術である。詩が僕のいうものの一例なのだ。一般大衆がそれを読まない故に、そしてその結果影響力を与えない故に、我々は英国に素晴らしい詩を持ち続けることができたのである)

又軽さでは次の例などはどうだろうか。

The only artists I have ever known, who are personally delightful, are bad artists. A great poet, a really great poet, is the most unpoetical of all creatures. But inferior poets are absolutely fascinating. He lives the poetry that they dare not realise. — *The Picture of Dorian Gray*

(僕が知っている中で個人的に楽しい芸術家というのはみな二流三流ばかりだね。偉大な詩人——本当に偉大な詩人というのはこの世で最も詩的でない



人物なんだから。しかし才能の劣った詩人たちは全く魅力的だよ。彼らは実現し得ない詩の世界を自ら生活しているのだから)

以上はすべてA型のパラドックスばかりであったが、B型もやや理屈っぽいことがあることはある。広い世界に出て目にした珍らしいこと、印象的なことを報告する詩人の話である。

‘I have nothing to tell you, for today, I have seen nothing’: for on that day, for the first time in his life, he had seen reality, and to a poet, fancy is reality, and reality is nothing. — *from a quotation in Vivyan Holland’s “Son of Oscar Wilde”*

(「私は今日何もあなたに云うことはありません。私は何も見なかったのです」というのはその日、彼は生れてはじめて現実を見たのだった。そして、詩人にとっては空想が現実であり、現実は無に等しいものだからである)

## 6. 「結婚」

The proper basis for marriage is a mutual misunderstanding. No, I am not at all cynical, I have merely got experience, which, however, is very much the same thing. — *Lord Arthur Savile’s Crime* (結婚の本質的な基盤は相互の誤解なのです。別に私は皮肉を言っているではありませんよ。ただ私は経験を持っているだけの話です。尤もどちらも大変似たものですけれどもね)

Of course married life is merely a habit, a bad habit. But then one regrets the loss even of one’s worst habits. Perhaps one regrets them the most. They are such an essential part of one’s personality. — *The Picture of Dorian Gray*

(勿論、結婚生活というものは単に習慣、それも悪い習慣に過ぎない。しかし我々は最も悪い習慣だって失われれば残念がるものなのだよ。ことによると一番残念がるかもしれない。それは我々の性格の中で非常に重要な部分なんだから)

“I don’t think I am likely to marry, Henry. I am too much in love.” — *Ibid.* (ヘンリー、僕は結婚できそうにもないよ。余りにも恋をしているのだから)

One should always be in love. That is the reason one should never marry. — *A Woman of No Importance* (人は常に恋をしているべきなのです。それが結婚をしてはならないという理由なのです)

どれも人生の機微をついた言葉ばかりであるが、正常な結婚生活を味わえなかったワイルドの悲劇的な一面がのぞいているように思われる。すべてA型のものばかりである。

7. 「恋愛」 It is difficult not to be unjust to what one loves.  
— *The Critic as Artist* (自分が愛しているものに対して不当な判断を下さないでいることは困難である)

これは至言である。この愛の問題、男女の感情のあやなどに関しては、ワイルドの機知が非常に軽く冴えわたる。

Love is not fashionable any more, the poets have killed it. They wrote so much about it that nobody believed them, and I am not surprised. True love suffers, and 'is silent. — *The Remarkable Rocket* (恋なんてもう流行らない。詩人がそれを台無しにしてしまったんだ。彼らはそれについて余りにも書きすぎたものだから、誰も信じなくなったわけだ。尤もなことだと思うよ。本当の愛というものは苦しみながら黙っているものだ)

The worst of having a romance of any kind is that it leaves one so unromantic. — *The Picture of Dorian Gray* (ロマンスの一番困ることは、あとで当事者を全く非ロマンチックにしてしまうことだよ)

The only difference between a caprice and a life-long passion is that caprice lasts a little longer. — *Ibid.* (浮気と生涯かけた情熱との唯一の相異点は、浮気の方が少し長続きするということさ)

B型の例としては、次のようなものがある。軽さと機知のやりとりが秀逸である。

Mrs Allonby: You have your looking-glass.

Lord Illingworth: It is unkind. It merely shows me my wrinkles.

Mrs Allonby: Mine is better behaved. It never tells me the truth.

Lord Illingworth: Then it is in love with you.

— *A Woman of No Importance*

(ア夫人「あなたは鏡をお持ちでしょう」イ卿「私の鏡は意地悪でしてね、私の皺ばかり見せてくれますよ」ア夫人「私の鏡の方が鏡がよいようですわね。決して真実を教えてはくれませんもの」イ卿「それではそれはあなたに恋をしているのですよ」)

8. 「男と女」

Lady Markby: …… But modern women understand everything, I am told.

Mrs. Cheveley: Except their husbands. That is the one thing the modern woman never understands. — *An Ideal Husband*

(マ夫人「……でも現代の女性は何でも判っているそうじゃありませんか」  
チ夫人「自分の夫を除いてはね。それが現代の女性には決して理解できないものなのです」)

I don't intend to grow perfect at all. At least, I hope I shan't. It would be most inconvenient. Women love us for our defects. If we have enough of them, they will forgive us everything, even our gigantic intellects. — *A Woman of No Importance*

(僕は完全無欠な人物になる気はさらさらないんだ。少くともなりたくはないと思っている。それはひどく不便だろうよ。御婦人方は欠点の故に我々を愛してくれるんだからね。我々に欠点が充分あれば、彼らは我々のどんなことでも許してくれるんだよ、我々の巨大な学識でさえもね)

女性が欠点の多い男性を好む風潮は古今東西を問わないものようである。そして女性が Intellect をきらうことも。

It's most dangerous nowadays for a husband to pay any attention to his wife in public. It always makes people think that he beats her when they're alone. The world has grown so suspicious of anything that looks like a happy married life. — *Lady Windermere's Fan*

(最近では夫が自分の妻に人前で親切にするのは大変危険なんですよ。二人っきりになったら奥さんを殴りつけるのではないかといつも人々に思わせますからね。世界中が、幸福な結婚生活のように見えるものには大変疑惑的になってしまいましたからね)

人前で夫婦仲の良さを見せるのも程々に、ということであろうか。

Well, there's nothing in the world like the devotion of a married woman. It's a thing no married man knows anything about. — *A Woman of No Importance*

(結婚した女性の献身的愛情のようにすばらしいものはこの世にないね。これは結婚した男性には決してわからないものだよ)

The happiness of a married man, my dear Gerald, depends on the people he has not married. — *Ibd.* (結婚した男性の幸福はね、ジ

エラルド、彼が結婚しなかった人々にかかっているんだよ)

Nowadays all the married men live like bachelors, and all the bachelors like married men. — *The Picture of Dorian Gray & A Woman of No Importance* (近頃では結婚した男がみな独身者のような生活をし、独身者はみな結婚した男のような生活をしている)

この辺になると、軽妙さの中にも世紀末の英国社交界の頹廢的な雰囲気的一端がうかがえる。以上はA型のものばかりである。

9. 「その他人生一般 —— A型を中心に」

The tragedy of old age is not that one is old, but that one is young. — *The Picture of Dorian Gray* (老年になってからの悲劇は、年を取ったことではなくて、自分が若いということなのである)

精神的には変らないのに、いつか年令の上では老人となる……恐らくすべての人が味わう悲劇をこの一節が簡潔に表現している。

Sir Robert Chiltern : You prefer to be natural?

Mrs. Cheveley : Sometimes. But it is such a very difficult pose to keep up. — *An Ideal Husband* (チ卿「あなたは自然に振舞うのがお好きなのですね」チ夫人「時々はね。でもそれは続けるのがとても難かしい演技ですわ」)

Moderation is a fatal thing. Nothing succeeds like excess. — *A Woman of No Importance* (適度というのは全く駄目です。過度にするのが一番です)

普通にやっていたのでは駄目で、他人以上の努力をしなくては、或は大いに入目につくようにしなくては成功しない、ということ逆説にくるんで言った言葉であろうか。

Early in life she had discovered the important truth that nothing looks like innocence as an indiscretion. — *Lord Arthur Savile's Crime* (若くして彼女は無分別ほど無邪気にみえるものはないという、重大な真理を発見していたのである)

若い女性の無軌道、無分別はしばしば微笑ましいものと映る。そして大人たちは寛大にそれを受けいれるものである。

Disobedience, in the eyes of any one who has read history, is man's original virtue. It is through disobedience that progress has been made, through disobedience and through rebellion. — *The Soul of Man under Socialism*

(不従順は、歴史を読んだことのある人なら誰の眼にも、人間の根本的な美

徳だということがわかるであろう。進歩は不従順によってなされて来たのだ  
——不従順と反逆とによって)

Ambition is the last refuge of the failure. — *Phrases and Philosophies for the Use of the Young*

(野心とは失敗者の最後の避難所である)

これは余りにも鋭い警句である。"Boys, be ambitious!" と云ったクラーク博士は、この一節を知っていたらうか。

A true ceases to be true when more than one person believes in it. — *Ibid.*

(ある真実は一人より多くの人が信ずると、真実ではなくなる)

これは彼の「WH氏の肖像」の主要テーマともなっているが、自分が秘かに強く信じていることを、他人の口から述べられると、不思議に白々しい気持になり、いつかそのこと自体に対する疑いをいただくようになる人間心理を衝いたものである。

People who shout so loud, my lords, do nothing. The only men I fear are silent men. — *The Duchess of Padua* (大声で喚きたてるものどもは何もいたしません。私が恐れているのは黙っている連中だけです)

Let me say to you now that to do nothing at all is the most difficult thing in the world, the most difficult and the most intellectual. To Plato, with his passion for wisdom, this was the noblest form of energy. — *The Critic as Artist*

(ここで一寸言っておくが、何もしないということは最も難かしいこと、最も難かしくて最も知的なことなんだよ。知識に対して燃えるような情熱をもっていたプラトンにとって、これは活動の最も高貴な形式だったのだ)

共に典型的な逆説である。前の例は、「吠える犬は噛まぬ」式の月並のものだが、後の例は do nothing をenergy に結びつけた点など実に巧みである。

And just as the philanthropist is the nuisance of the ethical sphere, so the nuisance of the intellectual sphere is the man who is so occupied in trying to educate others, that he has never had any time to educate himself. No, Ernest, self-culture is the true ideal of man. — *The Critic as Artist*

(慈善家が道徳界の厄介者であるのと同様に、学問の世界において、他人の

教育に熱中する余り、自分を教育する暇を持たない人も厄介者だ。自己修養が人間の本当の理想なんだからね、アーネスト)

我々教師にとって耳の痛い発言である。

He must be quite respectable. One has never heard his name before in the whole course of one's life, which speaks volumes for a man, nowadays. — *A Woman of No Importance*

(彼はきっと立派な人ですわ。今まで一度もあの人の名前を聞いたことがありませんもの。男の人の場合それは大したことでもものね、近頃では) 新聞、雑誌の紙面を賑わす人物で余り感心できるものが多いのは、いつも変らぬ現実であろう。

The only way to get rid of a temptation is to yield to it. — *The picture of Dorian gray* (誘惑を脱する唯一の道は、それに屈してしまふことだ)

There is only one thing in the world worse than being talked about, and that is not being talked about. — *Ibid.* (この世で人に噂をされるより悪いことが一つだけある、それは噂をされないことだ) これに似たことを、我が国でも最近某女性歌手が言っていたように記憶している。

10. 「B型に属するもの」

3rd Citizen: He looks honest.

1st Citizen: That be his villainy: knaves nowadays do look so honest that honest folk are forced to look like knaves so as to be different. — *The Duchess of Padua*

(3. 「彼は善人のように見えるが」

1. 「それがあいつの悪い所さ。近頃ときたら悪人共が余り善人の振りをするものだから、善人たちは違う所を見せようと悪人の振りをしなければならない仕末さ」)

“His dancing was funny,” said the Infanta; “but his acting is funnier still. Indeed, he is almost as good as the puppets, only, of course, not quite so natural.” — *The Birthday of the Infanta*

(姫君は言った、「彼の踊りも面白かったけれど、彼の演技の方がずっと面白かったわ。操り人形と同じ位面白いけれども、勿論それ程自然ではないわね」)

I can resist everything except temptation. — *Lady Windermere's*

Fan (僕は誘惑以外ならどんなものにも負けないんだ)

などがあるが、軽さで極立っているものとして、次の例はどうだろうか。

You see, it is simply a very young girl's record of her own thoughts and impressions, and consequently meant for publication. — *The Importance of Being Earnest* (これは大変若い娘の個人的な考えや印象を記録したに過ぎないものなのです。だから出版の方にまわすつもりですわ)

尤も、私記や日記の出版が流行っていることを背景に考えてみれば、このパロックスは一転してA型と考えられるかもしれない。

One day the Giant came back. He had been to visit his friend the Cornish ogre, and had stayed with him for seven years. After the seven years were over he had said all that he had to say, for his conversation was limited, and he determined to return to his own castle. — *The Selfish Giant*

(ある日巨人は帰って来た。彼はコーンウォールの鬼を訪問しに行って七年間滞在していたのだった。その七年も過ぎてしまふころは彼は話すことはすべて話してしまっていた。というのは彼の話題が乏しかったからなのだ。そこで彼は自分の城に戻る決心をした)

"Conversation, indeed!" said the Rocket. "You have talked the whole time yourself. That is not conversation."

"Somebody must listen," answered the Frog, "and I like to do all the talking myself. It saves time, and prevents arguments."

— *The Remarkable Rocket*

(「対話だって！」花火は言った。「あなたはずっと話さずくめだったじゃないですか。それは対話じゃないですよ」「誰かは聞き手にまわらなくてはならないんだよ」蛙は答えて云った。「それに僕は自分で全部話すのが好きなんだ。時間の節約にもなるし、議論を避けることにもなるからね」)

これらも印象的だが次の例なども又微笑ましい。

The King gave orders that the Page's salary was to be doubled. As he received no salary at all this was not of much use to him, but it was considered a great honour and was duly published in the Court Gazette. — *The Remarkable Rocket*

(王様はその小姓の給料を二倍にするよう命じた。彼は全然給料を貰っていませんだったので、大して彼には役に立たなかったが、それは大変な名誉である

と考えられ、宮廷新聞にしかるべく発表された)

又軽さにおいては次の例などが卓越しているように思われる。

You are perfectly right in making some alteration. Indeed, no woman should ever be quite accurate about her age. It looks so calculating. — *The Importance of Being Earnest*

(あなたは少し位変えても一向に差支えありませんよ。実際女性は自分の年を正確に言うべきではないのです。非常に計算高く見えますからね)

童話の *The Devoted Friend* は全編このB型の Paradox で構成されているが、次の例などはその典型である。

You must not mind my speaking quite plainly to you. Of course, I should not dream of doing so if I were not your friend. But what is the good of friendship if one cannot say exactly what one means? Anybody can say charming things and try to please and to flatter, but a true friend always says unpleasant things, and does not mind giving pain. Indeed, if he is a really true friend he prefers it, for he knows then he is doing good.

(君は私がひどく率直な言い方をするのを気にしちゃいけないよ。勿論私が君の友人でないのならそんなことは夢にもしようとは思わないさ。でも思ったことそのまま云えないのなら、友情なんて何の価値があるというんだ。誰だって喜ばしたり、おだてたりするためには、快いことを言えるさ。しかし本当の友人というのはいつも不愉快なことを言い、苦痛を与えても気にしないものなんだよ。本当の友人ならそうする方を好むものなんだ。自分が良いことをしているのだということを知っているからね)

Why, if little Hans came up here, and saw our warm fire, and our good supper, and our great cask of red wine, he might get envious, and envy is a most terrible thing, and would spoil anybody's nature. I certainly will not allow Hans' nature to be spoiled. I am his best friend, and I will watch over him.

(もしハンスがここにやって来て、我々の暖い煖炉や、おいしい夕食や、赤いブドウ酒が入った大きい樽を見たら、彼はねたましく思うかもしれないじゃないか。嫉みというのは大変恐ろしいもので、誰の性質でも損なうものなんだよ。私は絶対にハンスの性質は損わせたくないのだ。私は彼の親友だから、見守ってやるつもりなのだ)



このように云ってパラドックスの名手「粉屋の主人」は、「友情」の名のもとに、ハンスにきびしい悪口を浴せ、冬の寒さと飢えに苦しむハンスを救おうとはしない。このような論理的な遊びを含むのがワイルドの童話の特徴で、子供の読みものとしてよりも、大人のための童話としてむしろ面白いのではないかと思われる。

### (Ⅲ)

以上ワイルドのパラドックスをめぐって、ワイルドの人生観、芸術観などを探ってみたが、パラドックスがワイルドのすべてを網羅しているわけでは勿論ない。しかし、このパラドックスの中にワイルド文学のエッセンス、ワイルド独自の世界が表現されているのを見ることができるとは否めない事実である。公平に判断して大文学者の域には達していない作家であるかもしれないが、ワイルド程才気に満ちた文学者は、英文学史上はおろか、世界の文学の中でも類を見ないように思う。ただおしまれるのは、十九世紀末を彩る妖しい開花の後、身に襲いかかった不幸の「深淵」から、遂に立上れないまま、その後殆ど作品も残さず、廃人同様の晩年を閉じねばならなかったことである。ワイルド逝って六十有余年過ぎたが、いまだに彼の文学に匹敵する才智の文学はその後生れていないのだから。

註1. 無名時代のワイルドは人目を引くため、Aesthetic Costume (耽美服) にヒマワリの花を身につけて、ロンドン市内を闊歩した。又アメリカ訪問の際、税関吏に「申告するものは私の天才だけです」と述べたと伝えられているなど、兎角この種の話題にはことかかない。

註2. ダブリンのトリネター・カレッジ時代の恩師、テイレル教授、マーフィー教授によってギリシャ文化、ギリシャ文学に眼を開かされ、オクスフォードに移ってからは、有名なウォルター・ペーターによって、このヘレニズム文化への傾倒が決定づけられた。特にペーターは「美」の文学の根本理論をワイルドに教えた人物であった。

註3. ワイルドは約二十才も年下の美青年アルフレッド・ダグラス卿と親密な友情を結んだことが発端となって「青少年を誘惑」した罪に問われるに至ったのだが、「若さ」と「美」を理想とするワイルドが、同性愛的性癖のもとに、このような関係に進んで行ったのは、むしろ自然の成行きだったかもしれない。公判の争点となった、「ドリアン・グレーの画像」にも、

この雰囲気を示す個所が数多く見うけられる。ただ時代が現在であったら、ワイルドのような性格は、同情や好奇心の対象とはなるだろうが迫害の対象にはならなかっただろう。

### テキスト

The Works of Oscar Wilde : Collins, London and Glasgou, 1954  
Son of Oscar Wilde by Vivyan Holland : Penguin Books, 1957

### 参考書目

The Life of Oscar Wilde by Hesketh Pearson :  
Methuen, London, 1954

オスカー・ワイルドの生涯 (平井博), 松柏社, 東京, 1960

引用作品 (出版年代順)

Vera, or the Nihilists	1880	(24才)
The Duchess of Padua	1883	(27才)
Lord Arthur Savile's Crime	1887	(31才)
The Selfish Giant	1888	(32才)
The Devoted Friend	1888	(32才)
The Remarkable Rocket	1888	(32才)
The Birthday of the Infanta	1889	(33才)
The Decay of Lying	1889	(33才)
The Portrait of Mr. W. H.	1889	(33才)
The Picture of Dorian Gray	1890	(34才)
The Critic as Artist	1890	(34才)
The Soul of Man under Socialism	1890	(34才)
Lady Windermere's Fan	1892	(36才)
A Woman of No Importance	1893	(37才)
Phrases and Philosophies for the Use of the Young	1894	(38才)
The Importance of Being Earnest	1895	(39才)
An Ideal Husband	1895	(39才)
De Profundis	1913	
	1968. 9 . 29	